



<http://hatoh.net/>

波 濤

第 56 号

発行 放送大学神奈川同窓会

編集委員会

責任者 佐栞 慎二

発行日 平成31年1月12日

会員数 614名(平成30年10月1日現在)

学びは最高の贅沢のひとつ

会長 佐栞 慎二



放送大学の放送は昨年10月にテレビの地上波とラジオのFMが廃止され、テレビもラジオもBS放送に統一されました。その中で単位認定を前提としたこれまでの放送授業に加え、卒業・修了を前提としないカリキュラムを提供する新しいチャンネルがテレビ放送に加わりました。新しい放送はBS231チャンネルで、「BSキャンパスex」と呼ばれています。

このチャンネルは人生100年時代における社会人の多様な学び直しや生涯学習のニーズに応えることを目指しています。パレスチナ問題やリカレント教育などの時事問題や特別講義、データサイエンスなどのキャリアアップ番組、更に従来の単位認定を目指す放送からセレクトされた番組などがラインアップされています。スタートしたばかりで、まだ番組内容も試行錯誤の段階ですが、同窓会員の皆様も新しい生涯学習の場を是非ご活用下さい。同窓会としては皆様の感想やご意見、提案などお伺いして大学に伝え、「BSキャンパスex」の充実・発展に協力していきたいと考えています。

ところで「学びはいつも道半ば」という言葉があります。学ぶことに適齢期はない、一生学び続けることが大切だということでしょう。放送大学には学び続けながら、人生100年時代を生きて来られた方がおられます。お一人は我々神奈川同窓会の会員で94歳の今井慶子さんです。今井さんは70歳で放送大学に入学され、昨年9月には2回目の卒業をされて福富センター所長より表彰されました。熱心に勉

強される傍ら茶道や手芸など趣味が広く、毎年フェスタに見事な創作作品を展示されています。今回の『波濤』56号に学ぶ喜びを投稿して頂いていますので、今井さんの見事な生き方をお読み下さい。もう一人は北海道学習センターに所属される加藤榮さんという101歳の方です。加藤さんは15歳で尋常小学校高等科を卒業された後、81歳で仕事を辞められてから放送大学へ入学されました。既に3つのコースを卒業され、現在は4つめのコースを履修中です。私も最近お目にかかる機会がありましたが、自分が若い頃十分な勉強の機会がなく、人様より出遅れているという悔しさが学び続けてきた動機だと話されていました。加藤さんのこれまでの人生を伺いますと、仕事にも勉強にも真剣で常に前向きで生きて来られた方だと感心しました。

放送大学には小椋佳さんが作詞・作曲したイメージソングがあります。この中に「思えば学びは人間が味わえるそれ自体贅沢のひとつ。望めば学びは誰でもが手に出来る最高の贅沢のひとつ」という言葉があります。今井さんと加藤さんは放送大学でこの人間が味わえる最高の贅沢を求めてここまで来られたのでしょう。我々もともすれば言いたくなる「もう歳だから」という言葉を封印して、お二人を手本として生きていきたいと思えます。

神奈川同窓会は昨年9月に新たに19人の会員を迎え、会員数は614人となりました。学びの贅沢を味わう機会を与えてくれた母校に感謝し、共に学んだ学友との絆を持ち続けたいと願って入会されたものと思います。神奈川同窓会は様々な行事による対面交流の機会や会報やインターネットによる情報交換を通じて、会員の皆様のこのご要望に応じて行きたいと考えています。引き続きご支援・ご協力のほど宜しくお願い致します。

第32回フェスタ・ヨコハマ

(1) 來生学長記念講演会

2018年9月2日の10時から神奈川学習センター第8・9講義室において、神奈川サークル協議会主催「フェスタ・ヨコハマ」の記念講演会が開催されました。

今年度の講師は昨年から放送大学学長に就任された來生 新先生です。來生先生は副学長時代の4年前、第28回フェスタ・ヨコハマでも講演をしていただきましたので今回は2度目のご講演となります。

今年の講演のテーマは「教育と通信制度—高等教育における職業教育、教養教育の歴史とメディア」です。

冒頭、教養について改めて考え、専門職業人の養成という大学教育の起源についてのお話をされ、その後中世から近世のヨーロッパにおける社会の変化に伴い、大学における教養教育の概念、その教育がどのように変化したかについて述べられました。

次に日本の通信教育の原点である郵便制度の発展に絡め、資本主義の発達・成熟に伴う職業教育の必要性の増大ならびに、明治から大正時代にかけての学校教育の発展についてお話をされました。さらに戦後における放送の進展と通信教育の発展から放送大学設立に向けた経緯と生涯学習機関としての放送大学の在り方について解説されました。



最後に、インターネット時代の放送大学の変革について、その一つの指針である『Vision '17』における教育理念 Grade-up Learning の実践に向けたお話で、人生100年時代の生涯教育に求められるものとして、急激に変化する現代社会にふさわしい実践的な知の基盤づくりをお手伝いすることと職業的能力を向上させる教育を放送大学における教養教育の二つの柱とすることを語られ講演の締めとされました。

時間の制約があり残念ながら質疑応答の時間が取れませんでした。我々同窓生・学生に教養教育・職業教育と通信教育について、また、放送大学のこれからについて興味深い講義をしていただいた來生学長に、参加者一同とともに感謝申し上げます。

(木下義則)

(2) 同窓会の活動

9月1日(土) フェスタ・ヨコハマと同日開催の第5回「ホームカミングデー」の懇談会で福富所長より大学の歩みに触れ、修士課程・博士後期課程へと充実を図り、博士後期課程修了者の第1期生に神奈川から1名輩出した旨伝えられました。

次に佐葉会長から、放送大学バッジで、“まなびー”をデザインした方が、実は放送大学の卒業生で漫画家・イラストレーターでもある“この史代さん”であったとの紹介がありました。(映画『この世界の片隅に』の作者)



- 9月1日(土)
- ・ホームカミングデー
 - ・映画鑑賞会
 - ・ミニコンサート
 - ・大岡寄席
 - ・ダンスパーティー

9月2日(日) 同窓会茶道同好会主催の「お茶席」には來生学長、福富所長、河内事務長そして近隣同窓会のお客さんも8名参加され、本格的なお点前を披露して頂き大好評でした。

親睦交歓パーティは、各サークルの出店や日本の銘酒、ワイン、海外の珍しい飲料などが用意され、何と言っても「名物ヤキソバ」は大層喜ばれました。

最後は同窓会主催の大福引大会で総てを締めくくりました。行事参加人数延663名。(金田保男)



- 9月2日(日)
- ・お茶席
 - ・記念講演会
 - ・ジャズライブ
 - ・親睦交歓パーティ
 - ・作品展



2018年9月学位記授与式・祝賀会

9月22日(土)14時から学位記授与式が第8講義室で挙行されました。式典に先立ちロビーでは同窓会から桜茶が振舞われました。

卒業生は教養学部の180名、式典には81名が出席され、福富所長よりお一人ずつ卒業証書・学位記の授与が行われました。

福富所長の祝辞は「卒業は一つのゴールであり、新たなスタートである。ますますの活躍と将来再び学びの場に入って欲しい」とのお話でした。

来賓祝辞として佐葉同窓会会長からは北海道学習センターで101歳になる加藤榮さんの紹介をされ学び続けることの大切さ、人としての生き方について話され、続いて5名の客員教授からも祝辞がありました。

所長表彰は成績優秀の渡辺恵子さん、最高齢の今井慶子さんでした。卒業生代表として渡辺恵子さんが挨拶をされ、最後に名誉学生になられた足田勝三郎さんの紹介があり閉式となりました。

式典終了後、第7講義室で学習センターと同窓会共催による祝賀茶話会が開催され47名の卒業生が参加されました。卒業生全員が1分間スピーチを行い、苦労したこと、楽しかったことなどのご披露があり盛会裡に終了しました。

本日は8名の方が同窓会に入会されました。また同窓会では叢書を5冊、バッジ22個を販売しました。

(飯塚武夫)



卒業生の言葉

学問と人の良き出会いに感謝して

今井 勇



私は6年前の平成24年10月に、全科履修生の「人間と文化」コースを選択して放送大学に入学しました。私は18歳で新潟県の小千谷高等学校を昭和40年3月に卒業し、大学への進学を熱望したのですが、家庭の経済状況で叶わず、止む無く大手電機通信機メーカーに就職しました。

入社4年後に、縁あって企業内の教育機関である「京浜工業専門学院」の電子工学科に入学しました。横浜国大や東京工大の教授陣により、1年3ヶ月間を大学の専門課程である「電磁気学」や「半導体工学」等の電子工学の専門分野の学問の授業を受けることができました。

卒業後は日本国内での電話通信網拡大業務、海外では中近東のクウェートや東南アジアのシンガポール等の通信網拡大事業に参画し、業務を継続させていただきながら60歳で定年退職を迎えることになりました。

定年退職後は、毎日が日曜日なので時間に余裕ができ、会社での専門であった電子工学分野から離れ、ドストエフスキーの『罪と罰』に代表されるような、文学の分野にも昔から興味があったので大学へ進学することを思い立ちました。そして折り良く、放送大学の案内状が我が家のメールポストで目に留まり、入学する事を決めました。入学後の半年間は夢中で基礎科目の履修に専念しましたが、家庭での放送授業と学習センターでの面接授業にも慣れてきたので、半年後は英会話サークル「うえるかむ」に入会し、学生同士のコミュニケーションを通して、学ぶことの張り合いと科目履修の要領を得る事もできました。

「うえるかむ」は英会話の勉強と英語の語学勉強でした。入会当初に星会長に勧められて、「中近東のクウェート国に1年間常駐して」の演題で、サークルの会員の皆様の前で、英語でのプレゼンテーションの機会をいただきました。

そのようにサークル活動を行う事で、良き先輩方のご指導に恵まれ、専門科目の履修も無事できたものと理解しております。今後は同窓会に入会させていただきましたので、会員相互の交流を中心に活動をさせていただき、更に学びに磨きを掛けていきたい所存です。

卒業生の言葉

卒業を迎えて

今井慶子



私は現在 94 歳の横浜市民ですが、元々の出身は北海道の函館です。昭和 15 年に地元の女学校を卒業し東京の短期大学に入学いたしました。その翌年に太平洋戦争が起こります。戦時

下の慌しさの中で卒業し、戦禍を逃れ郷里に帰りましたが、函館の地の暮らしも空襲警報に苛まれる日々でした。昭和 20 年に終戦を迎えますが、その後結婚をして上京しました。現在の横浜に移り住んだのは 54 年前のことです。

24 年前の丁度 70 歳になった時でしたが、放送大学の存在を知った主人が私に入学を勧めたのです。短大時代は戦争の影響で勉学には程遠い状況でしたので、改めて勉強をする良い機会だと思い入学するに至りました。平成 6 年のことです。

入学するにあたり選んだのは教養学部の「人間の探求」でした。平成 16 年に何とか卒業しましたが、継続して学びたいという気持ちが強く、あらためて入学し「心理と教育」のコースを選択して学び、今回の卒業となりました。

最初の入学以来 24 年の時を通して、未知の世界を学ぶ楽しさ、難しさ、そしてその喜びは何ものにも代え難く「継続は力なり」という言葉はまさに至言と思うようになりました。加えて最近「遠山先生のゼミ」にも参加させて頂いていますが、毎回の様々なテーマに関しての質疑応答にも耳新しく新鮮な驚きの連続です。若い方々の仲間入りをさせて頂く中で隔世の感に戸惑うこともあります。自分自身が若返っていくように感じることも度々あります。

また年に一度の「フェスタ・ヨコハマ」の際には、いろいろな創作作品を発表することも楽しみの一つになりました。稚拙なモノですが、アイデアを形にしていく過程での失敗の連続、また時には予想外の出来上がりにも満足するなど、モノ創りの一端に触れたような幸せを感じております。

これまでこの放送大学で多くの事を学ぶことができたこと、また多くの方々とのご縁に恵まれたことに心から感謝しております。

最後になりますが私の好きなゲーテの名言を以て結びの言葉とさせていただきます。「人生において重要なのは生きることであって、生きた結果ではない」

名誉学生の言葉

これからの戦線縮小

佐竹信一



8 年半かかってようやく第 1 回の卒業を果たし、再入学しました。64 才と半年で完全退職した後、のどかで知的な、いわゆる「高等遊民」として過ごすための一助になるかと

放送大学に入学したのですが、それが思いがけず新天地を提供してくれました。毎学期の放送授業、面接授業とそれに伴う中間レポート・期末試験による知的挑戦もさりながら、韓国語や放友会といったサークル活動で知り合ったおおむね同年代の仲間と何回かお会いするうちに、かなり親しい友人を新たに持つことができたからです。

卒業論文は、できれば「幕末・維新时期に日本人が見た西洋」といったテーマでトライしたかったのですが、3 年前から自治会長という仕事が入ってきて断念しました。それまでカミさんに全部まかせていた地域の仕事ですが、「元気なうちに少しは地元のために」と思って引き受けたのです。

今は以前からの趣味に加え放送大学、自治会、コナミスポーツの 4 本柱で忙しく毎日を過ごしていますが、「元気なのは 75 才まで」とよくいわれます。論語の 70 才に謂う「心の欲する所に従えども矩を踰えず」とはいかないので、80 才になった頃はおそらく今とはだいぶ違って衰えた様子になっていると思います。飲酒、囲碁、映画、読書、軍艦、オペラ、仏像、旅行、外国語、山行、ダイビングなど趣味は自分でも多いと思いますが、これから少しずつ戦線縮小を考えないといけません。

自治会はやがて下りるにしても、ほかは最終的にどれと終生つきあうことになるかはまだ分かりません。自分ではいつ死んでも「あれもこれもやり残した」と思うでしょうが、外から見ている人は「やりたいことをあれほど好きにやった人はいない」と言うかもしれません。そんな私ですが、放送大学神奈川同窓会の新会員として、これからよろしくおつきあい下さるようお願い申し上げます。

卒業生ショートメッセージ

◆横浜市 高橋 寛：私は学位取得を目標として放送大学に入りました。仕事をしながら勉強を続ける苦労はありましたが、無事卒業でき今は感無量です。次は心理学を学びます。まだまだ勉強は続きます。

◆相模原市 村上利枝：私は仕事の相談業務に役立てたいと心理のコースを学びました。始めは頭が勉強の体制になっておらず、日々の学習も試験も大変でした。卒業の頃には勉強にも慣れ、認定心理士の科目もすべて取得できました。くじけず頑張ってきてよかったと思っています。

◆平塚市 中丸一良：在籍中は我が町の同輩の方々と全く交流がなく個人情報保護の関係と承知はしておりますが、大変残念に思った次第です。どうかできれば差し支えない程度に名簿の公表を希望します。

◆匿名：もっと真面目に勉強したらよかったと思う反面、やっぱりよく頑張ったんじゃないかと自分をほめたり。そして卒業式で所長さんから証書を頂いた時は、感激して涙が出そうになりました。これからも放送大学に通いたいと思っています。

◆海老名市 西村久美子：この度二度目の卒業を迎えました。ここ数年は母の介護に明け暮れ、授業の視聴もままならず、勉強は教科書を熟読するのみでした。環境さえ許せば卒論を書きたかったのですが断念。卒論は今後の課題とし、また学び続けたいと思いを新たにしています。

◆横浜市 吉岡 淳：2013年4月に全科履修生として入学、その後同年7月に定年退職し、今年9月に「社会と産業」コースを5年半かけて卒業できました。最後の単位認定試験は自信がなく試験結果が出るまで心配でした。「人間と文化」コースに再入学しましたので今後は楽しんで学んでいきます。



会員投稿

放送大学での学びと 地域での科学教育支援活動

神谷邦子



育児を終え、主婦から社会へ復帰した時の、浦島太郎感と挫折感はとても大きいものでした。

そこで、生命科学を中心に学びなおしをしようと思い、放送大学に入学しました。

卒業研究においては、自分のために研究活動を行うことができました。

他方では、子どもたちを理科好きにするためのボランティア活動に参加して、科学の実験や工作の楽しさを伝えるお手伝いができることの喜びを感じました。活動を行う中で、生命科学に関しては、昨今のメディア報道の中でも頻繁に話題に上がっているのに、知識の無さや偏見の多いことを実感しました。そこで、リテラシー教育に役立つプログラムを作りたいと考えましたが、ボランティア活動の中では開発に費やす時間も費用もありません。そこで、さらに大学院に進んで、プログラム開発を行うことができました。

開発では、「難しいことを易しく簡単に」という困難さがありました。理論通りにはなかなかうまくいかないこともありましたが、何とか形にすることができました。教授には、その都度熱心な指導と励ましを頂きました。最先端の科学の研究とは異なり、日々の生活の中から生じた疑問や問題点に関して、自ら進んで研究を行えることは、放送大学ならではの良さであると感じています。このプログラムが、社会貢献の一助になればと考えています。また、継続入学をすることで、学びを続けていけることもうれしく思っています。

今回、弘明寺サロンにおいて、「地域での科学教育支援活動報告」～おもしろ科学たんけん工房での活動から～と題して、私のボランティア活動とプログラム開発のお話をさせていただきました。参加された同窓会の皆様からは、多くの励ましや賛同をいただき、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。これからも微力ながら、社会に貢献していきたいと思っています。

会員投稿

気象予報の重要性について

片岡久雄



私は昭和26年4月から昭和41年3月まで海上保安官として海上保安庁に在籍しました。この間、10年間の陸上勤務(本庁)を挟み3年と2年の海上勤務(巡視船乗り組み)を経験しました。

この5年間に私は、海上保安庁が記録に残す大海難事件等7件に遭遇するという珍しい経験をしています。

そのうちの2件は函館海上保安部在任中に遭遇したものです。1つは、昭和29年5月9日に発生した道東沖海難事件で409隻のサケ・マス漁船の集団遭難です。死者数は409名以上ですがはっきりした数字はわかりません。原因は低気圧によるものです。情報が不足によるものであることには間違いありません。当時の巡視船は氷の冷蔵庫を使用していたので長期間の行方不明者の捜索は困難を極めました。

あと1つは同じ年の9月26日に起こった台風15号による函館港外における青函連絡船5隻の沈没事件です。沈没した船は洞爺丸、北見丸、十勝丸、第11青函丸、日高丸の5隻で死者1,450名という大惨事でした。なかでも洞爺丸は暴風雨について函館港から青森港に向かう途中、函館の西方1.6kmの七重浜沖で座礁、転覆沈没してしまいました。このため死者、行方不明1,155人という日本最大の海難事故となりました。遭難者は赤い船底を見せ転覆している洞爺丸の目と鼻の先の七重浜で茶毘に付されました。行方不明者の捜索中、浜辺にのぼる煙は異様な光景だったと思います。情報が不足がもたらした悲劇です。

後日、九州に上陸した台風が北海道に襲来することは予測できなかったかということが問題になりました。予測できたとする時の第1管区海上保安本部長(旧帝国海軍連合艦隊参謀の渡辺安次氏)と、不可能であったと主張する気象庁とは見解は分かれましたが、その結末はわかりません。

この2件の遭難は、現在のように優れた予報技術があれば当然防止できたはずで、気象予報の重要性を改めて知る思いです。

弘明寺サロン・レポート

●第60回 2018年6月16日(日)

講師：同窓会会員 今井 勇さん

演題：佐藤正雄のシベリア抑留記から読み解くシベリア抑留

友人の岳父、故佐藤正雄さんが第二次大戦で出征され、終戦とともに3年間にわたり、捕虜としてシベリア抑留生活を余儀なくされた際の日記です。その翻刻を卒業研究とされた今井勇さんの講演でした。シベリアの三重苦「飢餓・過重労働・極寒」の生々しい実態には胸が詰まりました。

●第61回 2018年8月23日(木)

第12回映画鑑賞会『禁じられた遊び』と併催映画鑑賞の後、懇親会開催

●第62回 2018年9月8日(土)

講師：同窓会理事 植地勢作さん

演題：藤原銀次郎論

—その思想形成と王子製紙の経営—

植地勢作さんの卒業研究の発表でした。渋沢栄一が興した日本で最初の株式会社である王子製紙の経営に携わった藤原銀次郎の評伝ですが、その生涯にわたり、事業家としての側面と第二次大戦下、政界に身を投じ、国策の推進にあたった政治家としての側面を精査された資料で、その思想形成過程について説明されました。

●第63回 2018年10月5日(金)

講師：NPO 法人会員・同窓会会員 神谷邦子さん

演題：地域での科学教育支援活動報告

神谷邦子さんは学び直しのため、放送大学「自然と環境」コースを卒業後、修士課程の「自然環境科学プログラム」を昨春修了されました。

現在、NPO法人「おもしろ科学たんけん工房」の会員として、子供たちが理科を好きになるためのボランティア活動に取り組んでおられます。今回の講演は、神谷さんが担当した活動について、動画を交えながらその活動実態についてのご報告をいただきました。(高橋照夫)

「春の行事」 能楽鑑賞

6月22日(金) 参加者34名が国立能楽堂で能・狂言を楽しみました。集合写真撮影の後、資料展示室では面や装束や絵画資料など所蔵の能楽資料を中心に、能楽の基礎的な知識をわかりやすく展示紹介されており、感銘を受けました。

11時より、全員が最高の正面席で、嫉妬と恨みの六条御息所の生霊(能:葵上)、清水に鬼が出たと嘘をつく太郎冠者(狂言:清水)を堪能しました。

今回の流派は、能はシテ(主役)五流派の中の喜多流、狂言は二流派の中の和泉流であります。

お食事処<向日葵>で昼食を共にし、団欒の後15時頃お開きとなりました。(勝山悌治)



「秋の行事」 2ヶ所の歴史博物館の見学

11月2日(金) 小春日和の中参加者33名はJR桜木町駅に集合、10分ほど歩いて神奈川県立歴史博物館に到着し、集合写真を撮り学芸員の出迎えを受けて入館しました。始めに、特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」(鎌倉坂の下・御霊神社の面掛行列など)を見学、次に常設展「都市鎌倉と横浜開港」について、どちらもボランティアの方の説明を受け見学しました。

その後、関内駅前の老舗(天吉)で昼食(天ぷらを中心とする美味しい和食)を済ませ、地下鉄に乗り、次の見学地横浜市歴史博物館に到着、集合写真を撮り学芸員の出迎えを受け入館しました。VTRによる横浜の歴史の観賞。常設展(生活の歴史)企画展(寄木細工)の見学。大塚・歳勝土遺跡公園でも学芸員の説明を受け見学し帰路に着きました。(勝山悌治)



社会貢献活動 (PIJ)

2018年度上期は同窓会会員各位よりPIJ(Plan International Japan)のために365,000円の寄付があり、昨年同様、5人の途上国の子ども達、すなわちネパール(13歳女子)、バングラデシュ(3歳女子)、インドネシア(13歳男子)、エクアドル(7歳女子)、パラグアイ(14歳女子)の支援を行っています。

PIJを通じての支援は、子ども達に直接現金を手渡すのではなく、住んでいる地域事務所を通してこれらの子ども達の教育・住居・生活などの環境整備の形で支援するものです。



また、8月に起こった西日本豪雨災害と10月に起こったインドネシアスラウェシ島の地震と津波の被害に対してPIJ事務局より緊急支援要請があったので、各5万円の義捐金を送りました。(石橋正彦)

社会貢献活動 (あしなが育英会)

神奈川同窓会では放送大学叢書の販売収益金全額をあしなが育英会に寄付しています。

あしなが育英会の活動は、隔月に発行される『あしながファミリー新聞』で紹介されています。新聞は学習センターの談話室に掲示していますが、その中で最近記載された2つの記事を紹介します。

5月19日号には、百年先を見据えた大構想で関東大震災からの復興に巨大な足跡を残した後藤新平を記念して制定された『後藤新平賞』にあしなが育英会が選ばれたと伝えています。歴代の受賞者にはJICA理事長の緒方貞子さんや、私達に身近な横浜国大名誉教授の植物生態学者の宮脇昭さんがおられます。

8月27日号には、あしなが育英会の会長の玉井義臣さんが紹介されています。玉井会長は長年にわたる交通遺児の支援のほか、阪神大震災の遺児支援のための神戸レインボーハウスの建設や、仙台での東日本大震災の津波遺児ケア施設の開設などの功績により、両陛下からねぎらいのお言葉をいただき、御所で懇談されたと伝えています。(村田カズ子)

会員投稿写真



山水画の世界

中国南西部、広西チワン族自治区に位置するカルスト地形。山に囲まれた町桂林。急速に発展する都市部との静と動の対比が興味深い。 小林隆次

第13回映画上映会のお知らせ

神奈川同窓会では次回上映会を下記の内容で開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

映画タイトル：『黒部の太陽』

日時：2019年2月9日(土) 13:30~16:00

会場：神奈川学習センター第7講義室

解説：『黒部の太陽』は、木本正次による1964年の小説を原作とする1968年公開の日本映画。当時、世紀の難工事と言われた黒部ダム建設の苦闘、特にトンネル工事を描いている。

ストーリー：関西電力は黒部川上流に第四発電所を建設するため、太田垣社長総指揮のもとに社運をかけて黒四ダム工事にあたることになった。間組の国木田と熊谷組の下請会社の岩岡源三は、ともに現場責任者の北川(三船敏郎)を訪れ、ダム工事の難しさを知らされた。源三の息子剛(石原裕次郎)は、トンネル掘りのためにどんな犠牲も省みない源三に反抗し、家を出て設計技師として図面をひいていた。



(寺村紀美夫)

事務局だより

2018年10月1日現在の会員数は614名です。また2018年7月14日(『波濤』55号掲載)以降2018年秋期入会者は下記の通り22名の方です。心より歓迎申し上げます。(敬称略)

森田秀和	笹村泰秀	中丸一良	樋口敏江
五十嵐文雄	池田耕次	今井 勇	吉田晃子
高橋 寛	大平 静	代田正美	西森直紀
大岡友紀	村上利枝	山本光代	佐々木麻保
佐竹信一	白瀬正樹	城月恒雄	吉岡 淳
西村久美子	児玉州生		

お願い

住居移転のあった方は、ハガキまたはホームページの URL <http://hatoh.net/> の「入会案内欄」にて連絡をお願いします。また例年総会案内と一緒に年会費「払込取扱票」を同封しておりますので未納入の方はご協力の程お願いいたします。

口座名 神奈川同窓会

口座記号番号 00250-4-□□16183 (右詰め)

年会費 1,000円 (送料はご負担願います)

お問い合わせ 金田保男 Tel. 045-333-4426

E-Mail: yasuo-kaneta-626531@hotmail.co.jp

訃報

杉本日出子様 龍造寺寛様

長谷川哲司様

心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌

編集後記

会員の皆様のご協力により平成最後の56号も完成させることができ、有難うございました。創刊号は平成2年(1990年)12月でした。元号が変わっても57号、更には同窓会創立30周年記念の60号を目指していきたいと思えます。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。(佐藤 敬)